

令和 6 年度全国学力・学習状況調査 高浜市の結果について

令和 6 年度全国学力・学習状況調査における本市の結果の概要についてお知らせします。令和 6 年度調査も、昨年度に引き続き悉皆による本体調査です。なお、今回の結果は、学力及び学校の教育活動の一側面であり、全ての学力や生活の様子を表しているわけではありません。

I 調査の実施状況について

調査実施日	令和 6 年 4 月 1 8 日（木）
調査内容	教科に関する調査 国語、算数・数学
	生活習慣や学習環境等に関する質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
調査対象	小学校 6 年、中学校 3 年の全児童生徒
調査状況	小学校 6 年： 4 8 6 人 中学校 3 年： 5 2 2 人

2 教科に関する調査の結果

小・中学校の各教科の学習領域で、「よくできていた領域」と「課題がある領域」を挙げ、その領域での出題の趣旨を示します。また、問題形式を次のように示します。 選択＝選択式 短＝短答式 記述＝記述式

小学 6 年生の状況 国語 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の内容	問題形式	出題の趣旨
○	読むこと	選択	物語を読み、人物像を具体的に想像することができる
	我が国の言語文化に関する事項	選択	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つと気付くことができる
☆	話すこと・聞くこと	選択	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる
	話すこと・聞くこと	選択	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる

小学 6 年生の状況 算数 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	数と計算	短	除数が小数である場合の除法の計算をすることができる
	データの活用	短	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる
☆	図形	短	球の直径の長さとは立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる
	変化と関係	記述	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

中学３年生の状況
 国語
 ○：よくできていた領域
 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の内容	問題形式	出題の趣旨
○	話すこと・聞くこと	短	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる
	書くこと	選択	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる
☆	話すこと・聞くこと	記述	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる
	読むこと	記述	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる

中学３年生の状況
 数学
 ○：よくできていた領域
 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	データの活用	短	確率を用いて不確定な事象を捉え考察する場面で、簡単な場合について、確率を求めることができる
	数と式	短	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる
☆	数と式	短	数量及び数量の関係を捉え説明する場面で、連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる
	図形	記述	図形の性質を考察する場面で、筋道を立てて考え、証明することができる

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査の結果

(1) 児童質問紙の結果（小学校）

○「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が多い質問

- ・毎日、朝食を食べ、同じぐらいの時刻に就寝・起床している。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。
- ・PC・タブレットなどのICT機器を活用すると、友達と協力しながら学習を進めることができる。

☆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が少ない質問

- ・困りごとや不安がある時に、大人にいつでも相談しようと思う。
- ・自分と違う意見について考えることは楽しいと思う。
- ・5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめていた。
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなぐことができた。

(2) 生徒質問紙の結果（中学校）

○「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒が多い質問

- ・毎日、朝食を食べ、同じぐらいの時刻に起床している。
- ・自分にはよいところがあると思う。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・PC・タブレットなどのICT機器を活用すると、自分のペースで理解しながら学習を進めること、分からないことをすぐに調べることに、楽しみながら学習を進めることができる。
- ・PC・タブレットなどのICT機器を活用すると、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。

☆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒が少ない質問

- ・毎日、同じぐらいの時刻に就寝している。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・困りごとや不安がある時に、大人にいつでも相談しようと思う。
- ・1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。

4 学力・学習状況調査の結果を受けて

<国語>

小学校「話すこと・聞くこと」の学習では、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する活動を取り入れたい。また、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫する活動も必要である。活動を進める際には、児童が実際に相手と交流する前に、話合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを知り、それらを踏まえて、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定することが重要である。集めた材料は、「聞き手が知りたい内容」と「自分が伝えたい内容」に整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりできるように指導していく。また、必要に応じて提示する資料についても検討するよう支援していく。

中学校「話すこと・聞くこと」の学習では、聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫する活動を取り入れたい。資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。このことを踏まえて、資料や機器を適切に用いることができるようにしたい。話し手の考えを正確に伝え、聞き手の理解をより深めるには、どのような資料や機器が必要なのか、また、それらをどのように用いれば効果的なのかなど、具体的な状況を想定して検討するよう支援するとともに、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返る機会を設け、表現の工夫について深く考えられるよう指導していく。

<算数・数学>

小学校「図形」の学習では、身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見いだすことで、問題を解決するために必要な情報を判断し、筋道を立てて問題を解決できる力を育てたい。例えば、ボール（球）が入った箱（直方体）の体積を求める活動では、球が入った直方体を準備し、実際に真上や真横から観察することで、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径は球の直径と等しく、直方体の一辺と等しいことに気付かせる。そこから、児童が直方体の体積を求めるために必要な長さや球の直径の長さが関係していることを見だし、「球の直径の長さをいれば、直方体の辺の長さが分かり、体積を求めることができるのではないか」と考えられるように指導していく。

中学校「数と式」の学習では、数量及び数量の関係について成り立ちそうな事柄を予想し、予想した事柄を明確に表現し、文字式を活用して事柄が成り立つ理由を説明するという一連の活動を取り入れたい。例えば、「連続する3つの自然数の和は、3の倍数になる」ことを活用して、「連続する3つの偶数の和」について成り立つ事柄を予想し、文字式を用いて説明する活動では、まず、連続する3つの自然数は、 n 、 $n+1$ 、 $n+2$ と表せることを確認する場面を設定する。その上で、それらの和は、 $3(n+1)$ と表せることから3の倍数であることを説明できるようにする。その後、連続する3つの偶数の和についても同様に、文字式でどう表すか、表した文字式はどんな事柄を示しているのかを考えることで、得られた結果やその過程から新たな関係を見いだすことができるように指導していく。

<生活>

各校において、高浜市教育基本構想の取組の一つである高浜カリキュラムや異校種連携事業を通して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進め、生きる力を育む質の高い教育活動を実施していく。また、個別支援の充実に向けた取組を推進し、一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育活動を実施していく。これらの教育活動を充実させ、「学びの中で試行錯誤を繰り返して、自分なりのものをつくる」機会を保障することで、子どもたちの「なりたい自分に向かって学ぶ力」を育てていく。